

## □研究報告

### 修正CI療法における利き手，非利き手の違いが変化量に与える影響

○北谷 渉<sup>1)</sup> 川上直子<sup>1)</sup> 川北慎一郎(MD)<sup>1)</sup>

要旨：本邦における修正Constraint-Induced movement therapy（以下，CI療法）では，介入の効果を利き手と非利き手とで比較した報告は見当たらない。今回，修正CI療法を実施した複数の対象者について，麻痺手が利き手と非利き手とで麻痺側上肢機能，上肢使用頻度において，介入の効果を比較した。結果，利き手と非利き手で有意な改善と最小可検変化量を超える変化を認め，特に利き手においてわずかに変化量が大きい結果であった。利き手においては，麻痺手を用いて実現したい目標が明確になりやすく，評価項目自体に直結するものが多く，特に使用頻度では改善が顕著になる可能性が示唆され，非利き手においては，学習性不使用に陥る可能性が高い反面，作業療法士が対象者の生活場面により介入することで，麻痺手使用のCI療法のコンセプトである麻痺手の行動変容を促す重要性が示唆された。

石川県作業療法学術雑誌33：1～6，2024

Key Words：CI療法，上肢機能，脳卒中